

アンケート調査からみる石川町の現状

アンケート調査からみる石川町の現状

1-1 こどもまんなか社会の実現に向けて

(1) 生活に満足している子どもについて

生活に満足している子どもをみると、満足度が高いのは小学5・6年生では78.4%、高校生等では68.6%、中学生では67.8%となっています。

■生活に満足している子どもについて

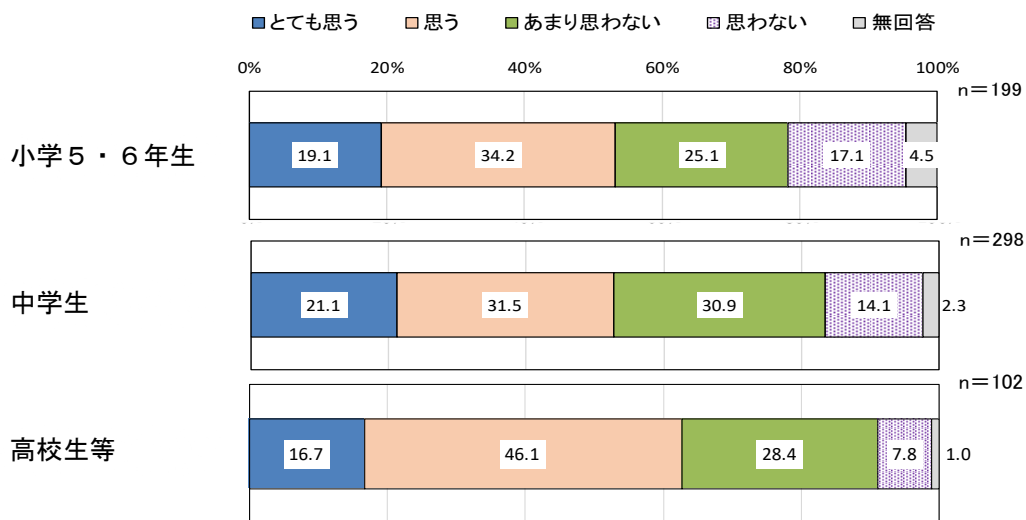
	満足度
小学5・6年生	78.4%
中学生	67.8%
高校生等	68.6%

(2) 自分のことが好きだと思う子どもについて（自己肯定感の高さ）

自分のことが好きだと思う子どもをみると、「とても思う」と「思う」を合わせた自己肯定感が高いのは高校生等では62.8%、小学5・6年生では53.3%、中学生では52.6%となっています。

県の調査では小6が60.7%と一番多く、高2では51.0%と一番少なくなっており、町の調査結果に比べ年齢があがるにしたがって自己肯定感が低くなっています。

■自分のことが好きだと思う子どもについて（自己肯定感の高さ）



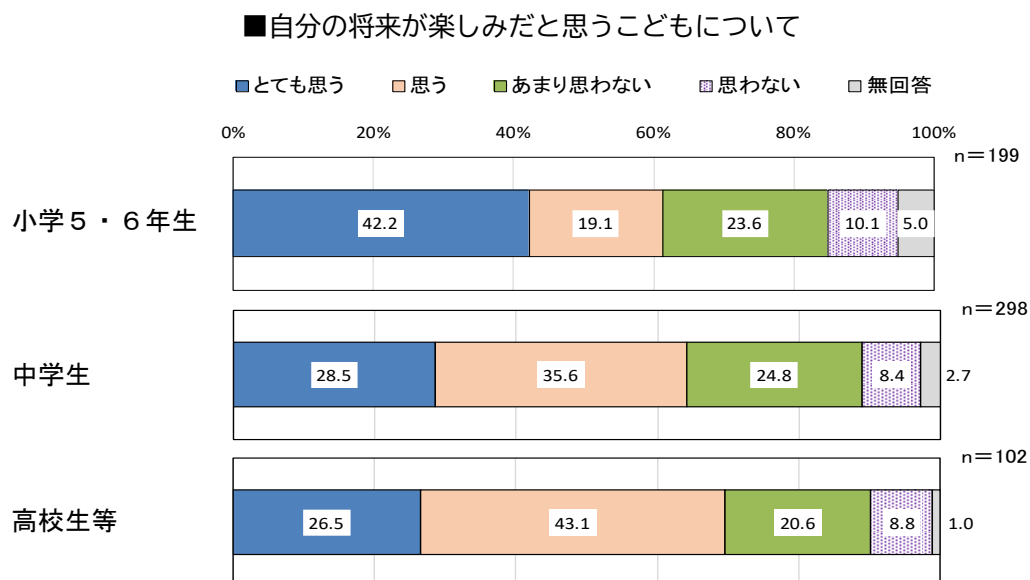
■参考（県の調査）

	「思う」
小6	60.7%
中2	56.5%
高2	51.0%

出典：福島県「令和6年度こどもまんなかアンケート結果報告」より

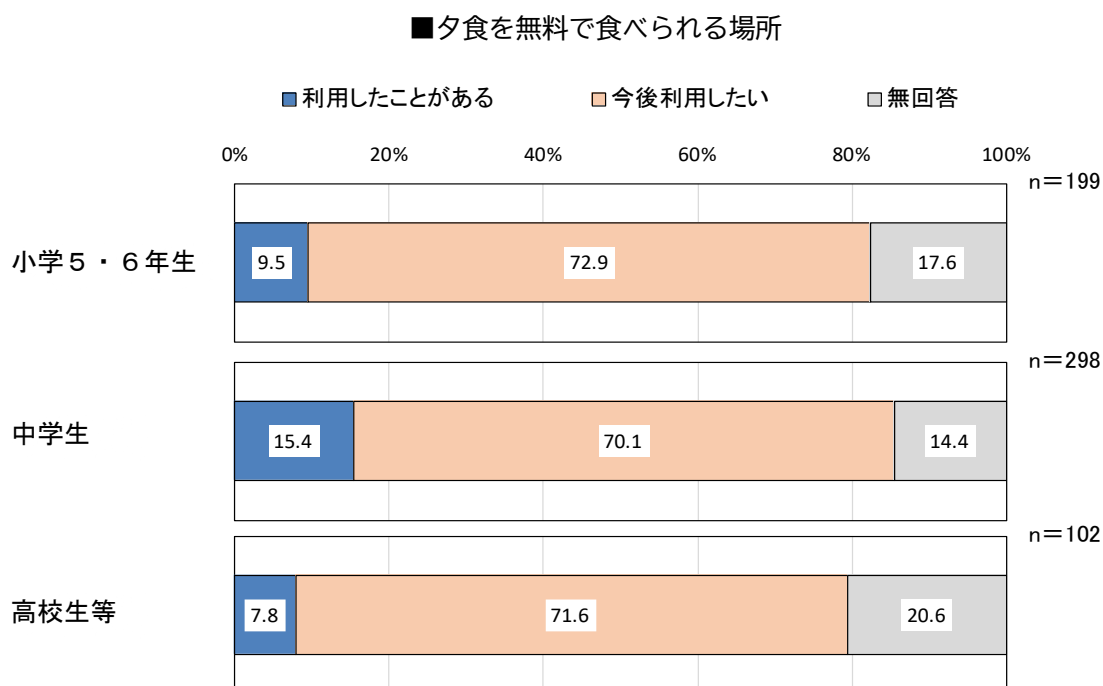
(3) 自分の将来が楽しみだと思うことについて

自分の将来が楽しみだと思うことをみると、「とても思う」と「思う」を合わせた「楽しみだと思う」が多いのは高校生等では 69.6%、中学生では 64.1%、小学５・６年生では 61.3%となっています。



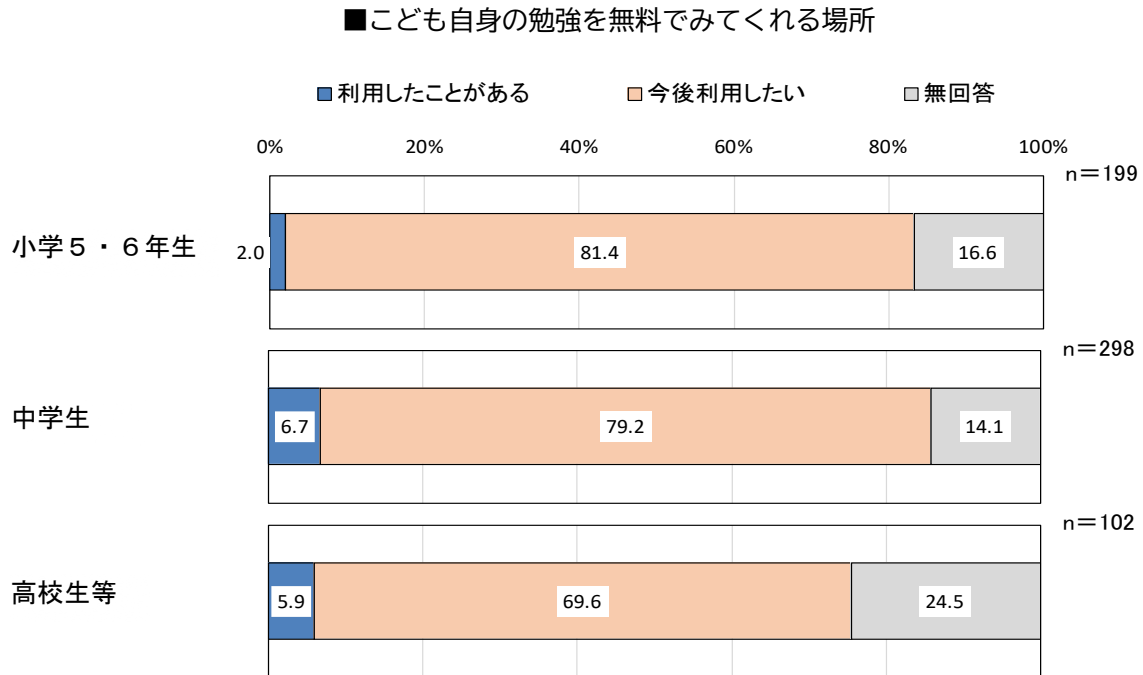
(4) 夕食を無料で食べられる場所について

夕食を無料で食べられる場所の利用状況と利用希望をみると、「今後利用したい」（小学５・６年生：72.9%、中学生：70.1%、高校生等：71.6%）が最も多くなっており、「利用したことがある」は、中学生では 15.4%と、小学５・６年生（9.5%）、高校生等（7.8%）を上回っています。



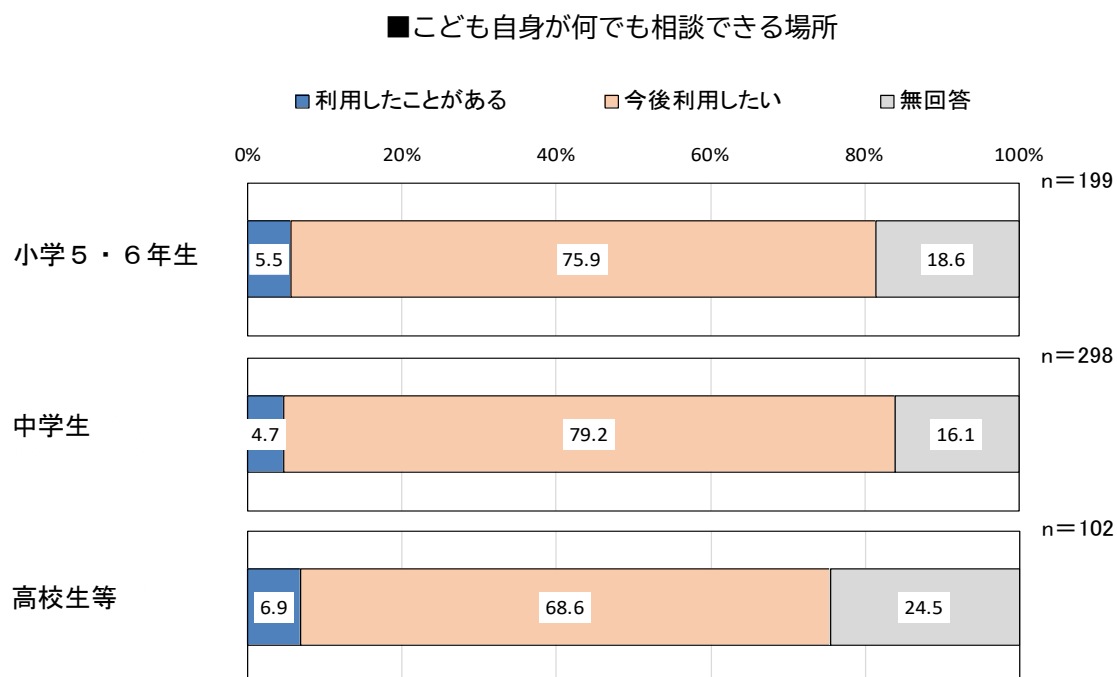
(5) こども自身の勉強を無料でみてる場所について

こども自身の勉強を無料でみてる場所の利用状況と利用希望をみると、「今後利用したい」(小学5・6年生：81.4%、中学生：79.2%、高校生等：69.6%)が最も多くなっており、「利用したことがある」は、中学生では6.7%と、小学5・6年生(2.0%)、高校生等(5.9%)を上回っています。



（６）こども自身が何でも相談できる場所の利用状況と利用希望について

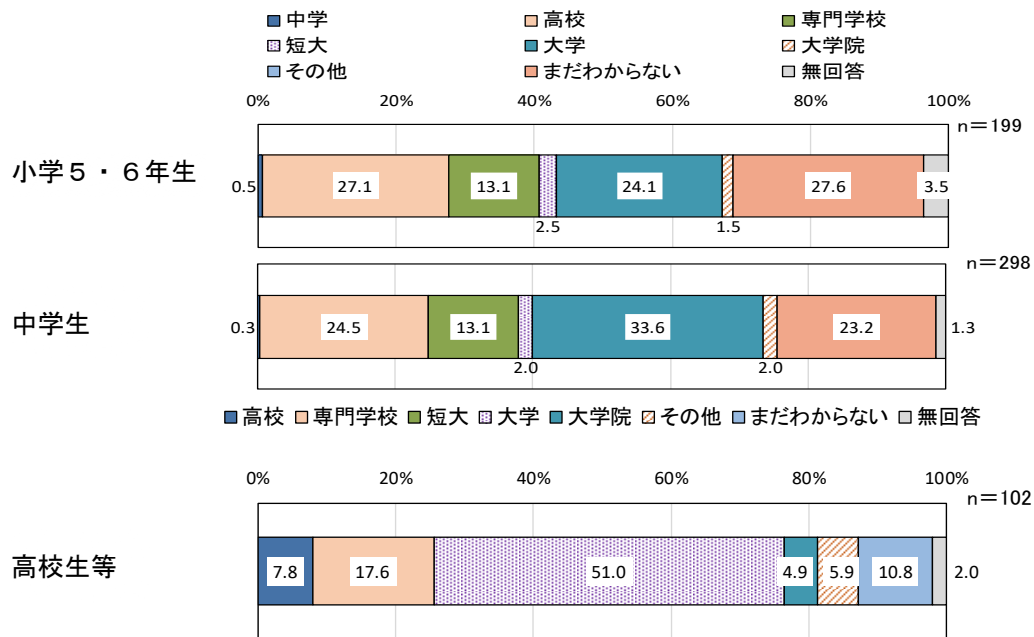
こども自身が何でも相談できる場所の利用状況と利用希望をみると、「今後利用したい」（小学５・６年生：75.9%、中学生：79.2%、高校生等：68.6%）が最も多くなっており、「利用したことがある」は、高校生等では6.9%と、小学５・６年生（5.5%）、中学生（4.7%）を上回っています。



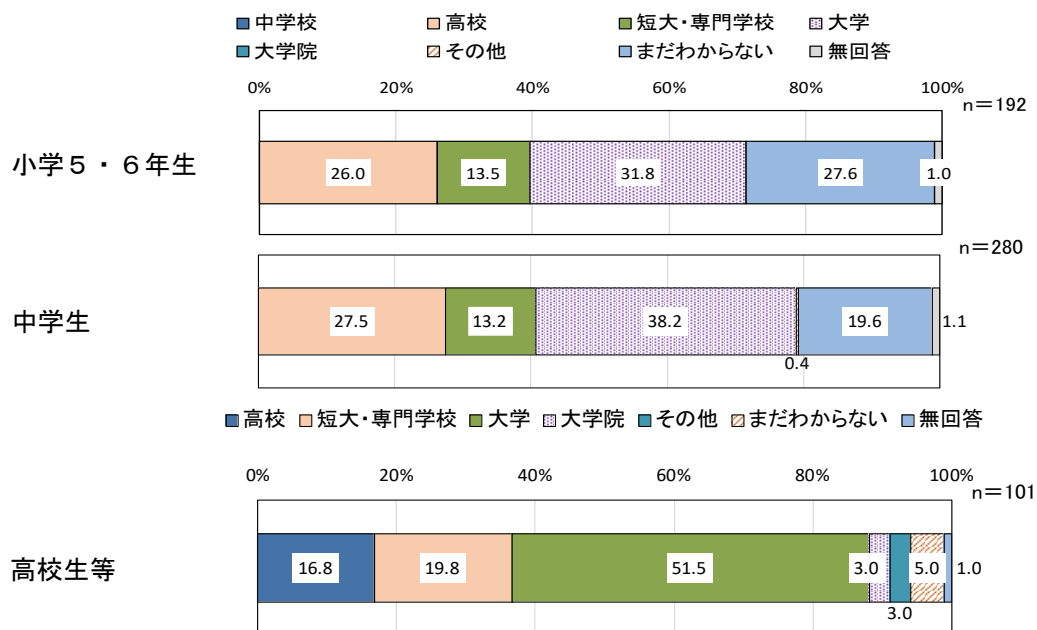
(7) 希望の進学先について

希望の進学先をみると、保護者、こども自身いずれも「大学」の回答が最も多く、こどもの成長段階に応じて増加傾向にあり、特に高校生等では現実味を増してきていることがうかがえます。親子間の大きなギャップはみられません。

■こども自身が希望する進学先



■保護者が希望するこどもの進学先



(8) こどもが安心できる居場所の有無について

こどもが安心できる居場所の有無をみると、「ある」が多いのは高校生等では 90.2%、小学5・6年生では 88.4%、中学生では 83.2%となっています。

県の調査と比べると、「ある」は町が上回っています。

■こどもが安心できる居場所の有無

	「ある」
小学5・6年生	88.4%
中学生	83.2%
高校生等	90.2%

■参考（県の調査）

	「ある」
小6	82.3%
中2	77.8%
高2	69.3%

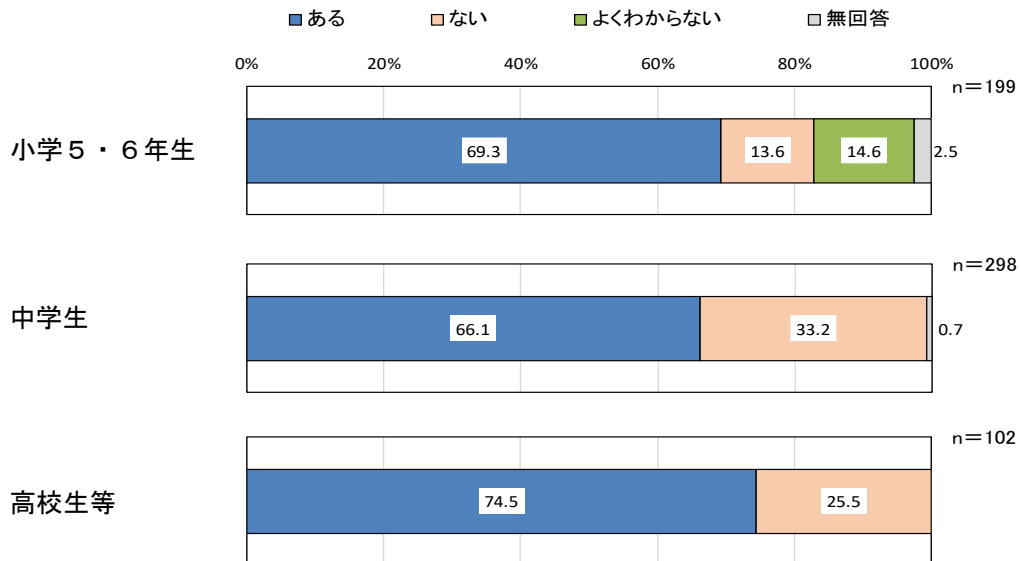
出典：福島県「令和6年度こどもまんなかアンケート結果報告」より

（９）こども自身の将来の夢やなりたい職業の有無について

こども自身の将来の夢やなりたい職業の有無をみると、「ある」が多いのは高校生等では 74.5%、小学５・６年生では 69.3%、中学生では 66.1%となっています。

県の調査と比べると、本町の中学生、高校生等では県を上回って、将来の夢やなりたい職業が「ある」と答えています。

■こども自身の将来の夢やなりたい職業の有無



■参考（県の調査）

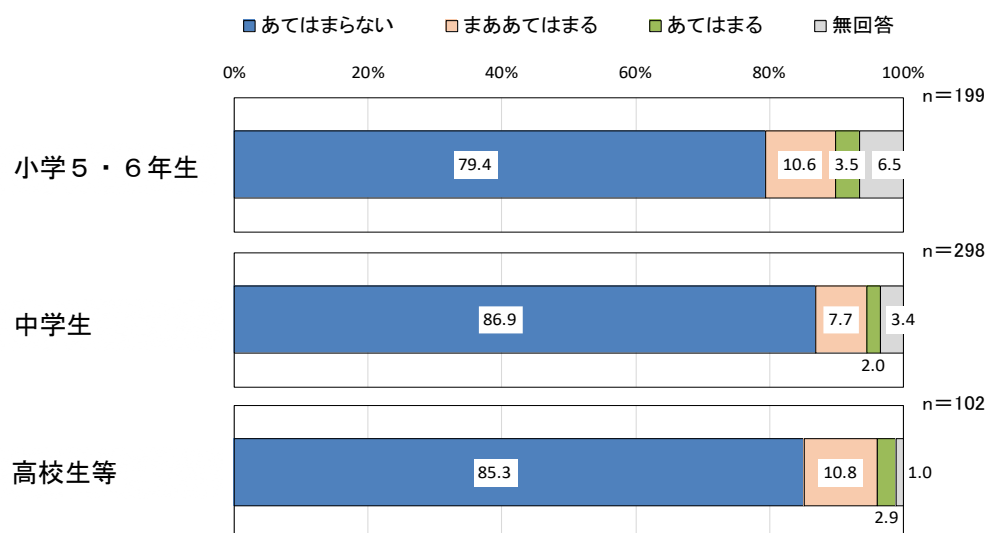
	「ある」
小６	74.3%
中２	62.6%
高２	67.4%

出典：福島県「令和６年度こどもまんなかアンケート結果報告」より

(10) こども自身がいじめられたり、からかわれたりすることの有無について

こども自身がいじめられたり、からかわれたりすることの有無をみると、いずれも「あてはまらない」が最も多くなっていますが、「まああてはまる」と「あてはまる」を合わせた“あてはまる”割合は、小学5・6年生では14.1%、高校生等では13.7%、中学生では9.7%と、いじめやそれに発展する可能性が少なくないことがわかります。

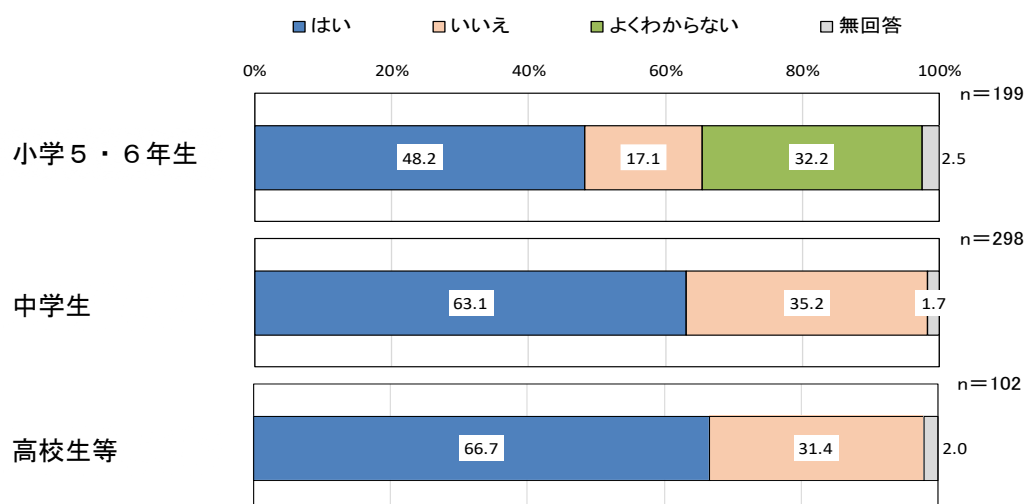
■こども自身がいじめられたり、からかわれたりすることの有無



(11) こども自身が将来、結婚したり家族をもったりすることについて

こども自身が将来、結婚したり家族をもったりすることについてみると、「はい」が多いのは、高校生等では66.7%、中学生では63.1%、小学5・6年生では48.2%となっており、必ずしも肯定されていません。

■こども自身が将来、結婚したり家族をもったりすること



1-2 保護者の状況について

(1) 保護者の就労状況について

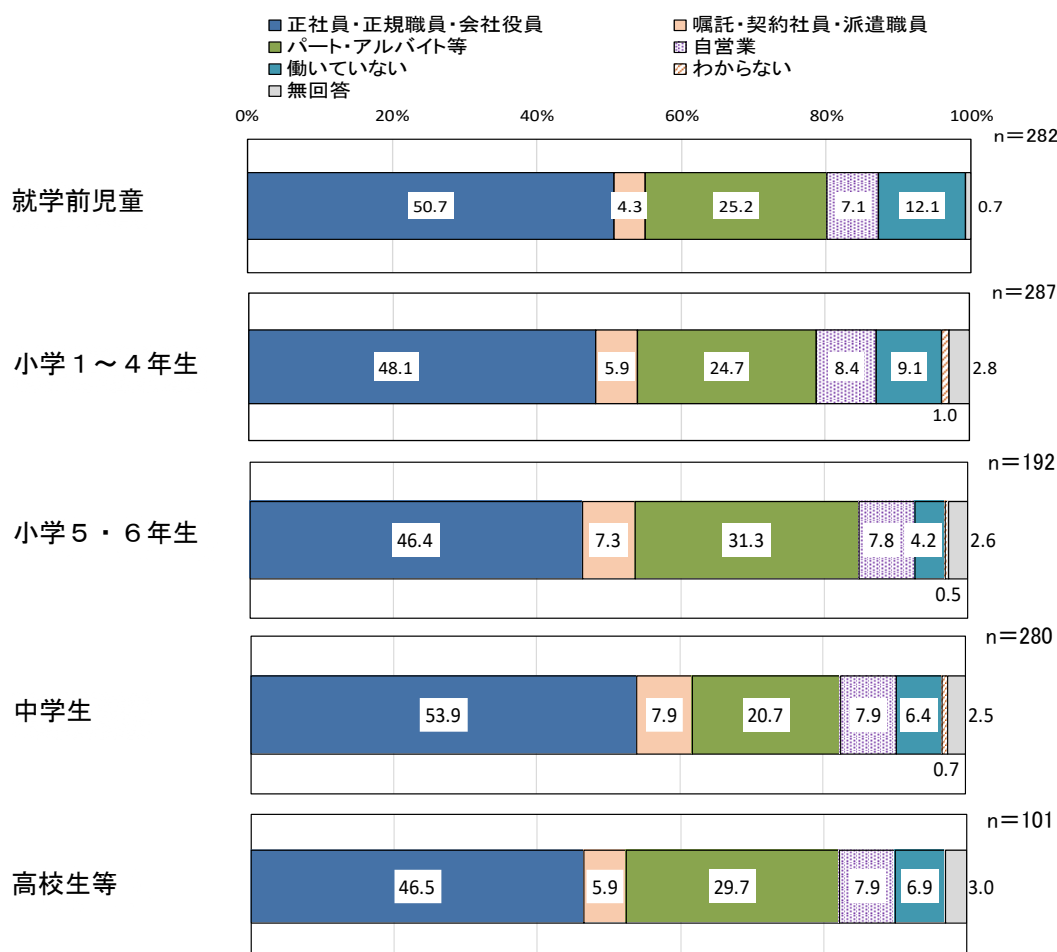
母親の就労状況をみると、「正社員・正規職員・会社役員」は就学前児童では 50.7%、小学 1～4 年生では 48.1%、小学 5・6 年生では 46.4%と、子どもの年齢があがるにしたがって少なくなっています。

「正社員・正規職員・会社役員」と「パート・アルバイト等」と「嘱託・契約社員・派遣職員」と「自営業」を合わせた就労率は、就学前児童では 87.3%、小学 1～4 年生では 87.1%となっており、前回調査（就学前児童：71.8%、小学 1～4 年生：86.2%）と比較すると、就学前児童では上昇傾向、小学生では横ばいとなっています。

父親の就労状況をみると、母親と比べてこどもの成長段階に応じた働き方の転換の影響は大きくないことがうかがえます。

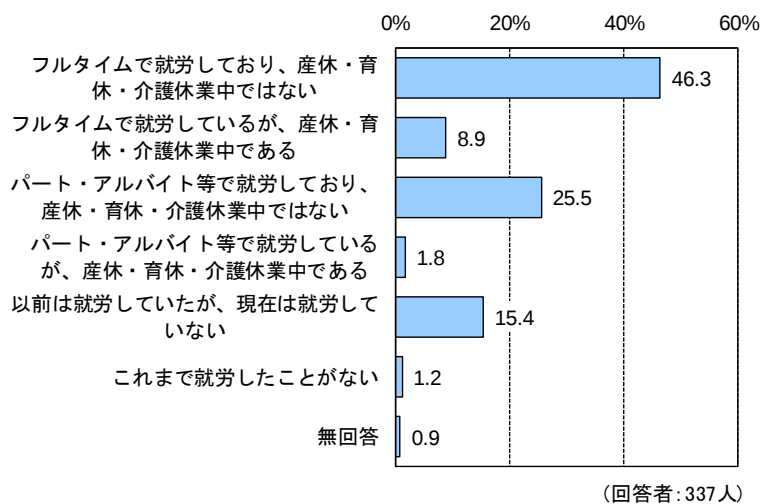
※今回調査と前回調査とは選択肢が異なるため、就労率は参考比較

■母親の就労状況

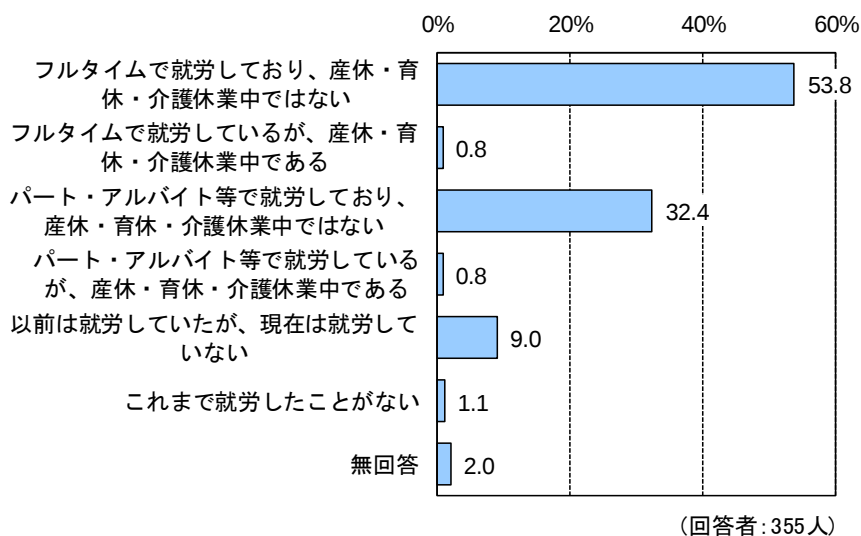


■母親の就労状況（前回調査）

【就学前児童】



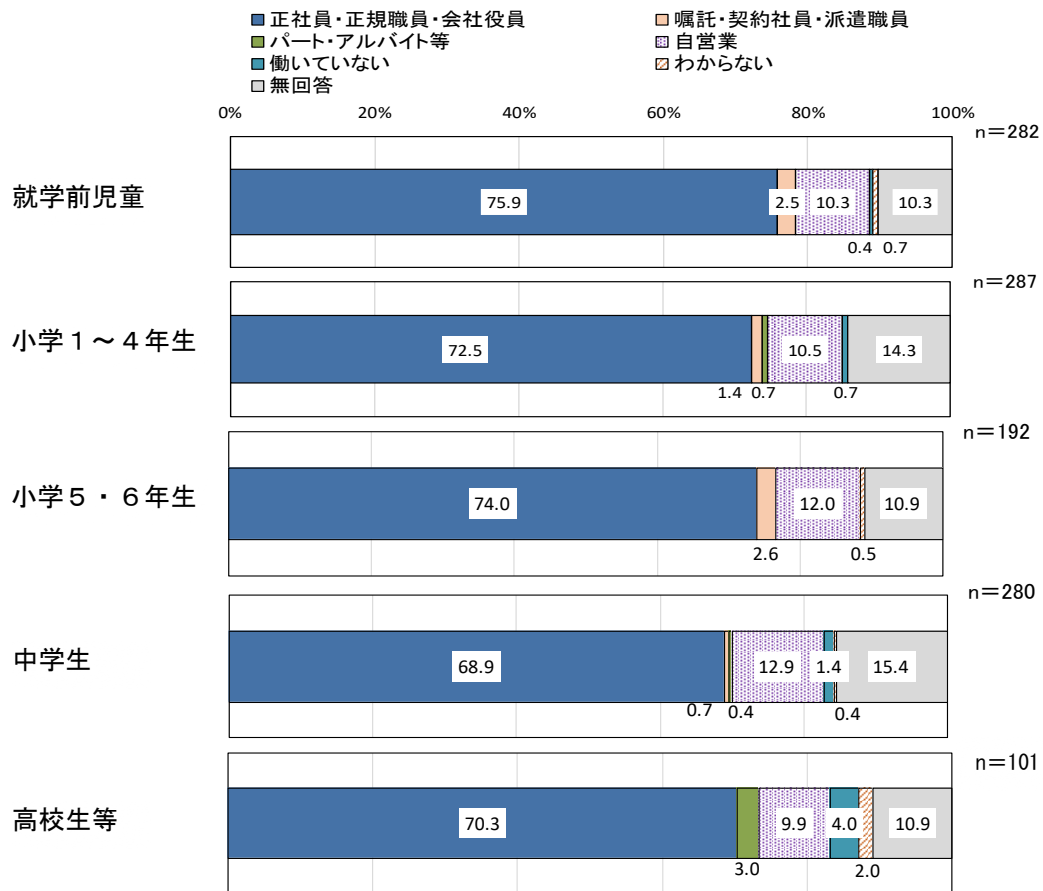
【小学生】



※「前回調査」とは…

令和元年度に実施した「石川町子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査」のこと。
対象は就学前児童の保護者と小学1～4年生の保護者。以降、前回調査と表記する。

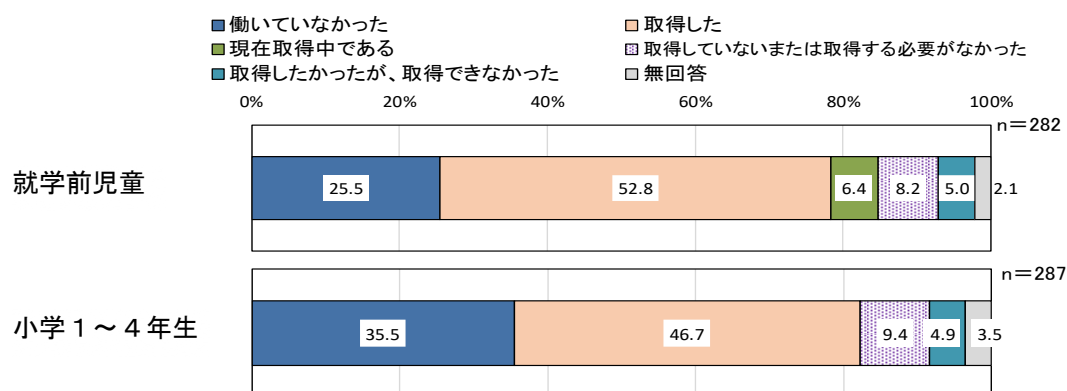
■父親の就労状況



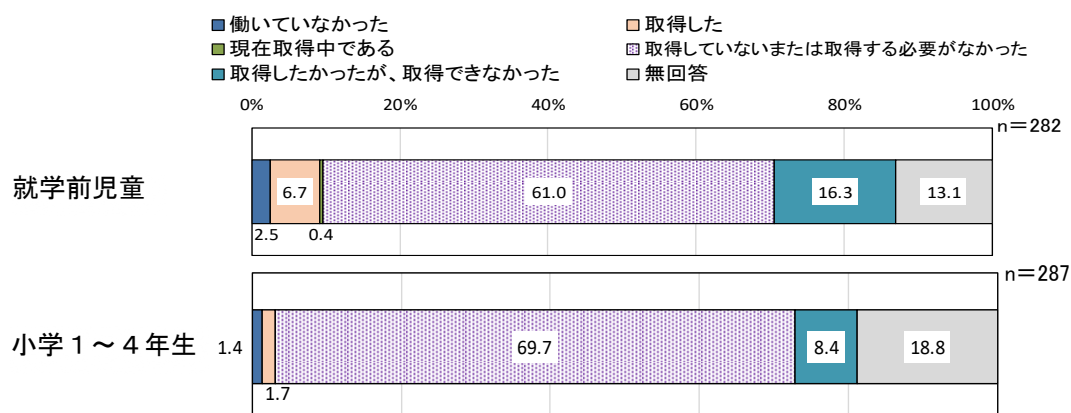
(2) 育児休業の取得状況について

育児休業の取得状況をみると、「取得した」は、母親は、就学前児童では 52.8%、小学 1～4 年生では 46.7%、父親は、就学前児童では 6.7%、小学 1～4 年生では 1.7%と、就学前児童の保護者の取得率が上回っています。

■母親の育児休業の取得状況



■父親の育児休業の取得状況

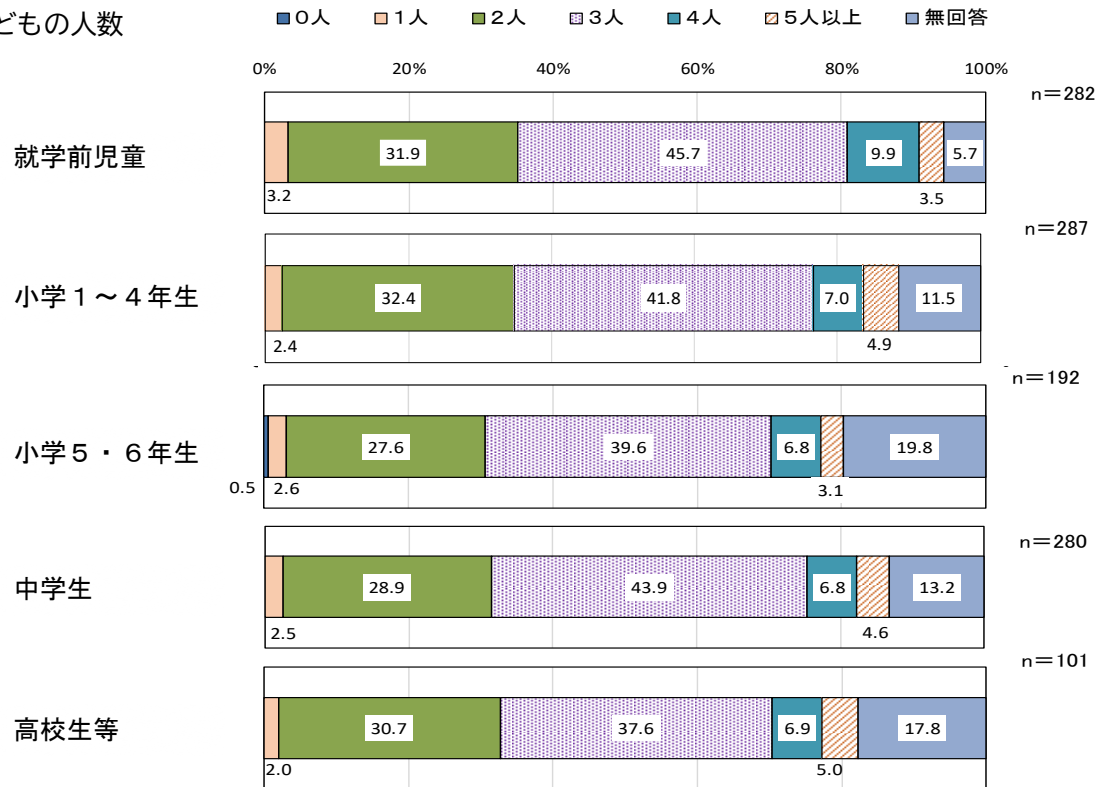


(3) 理想と予定のこどもの人数について

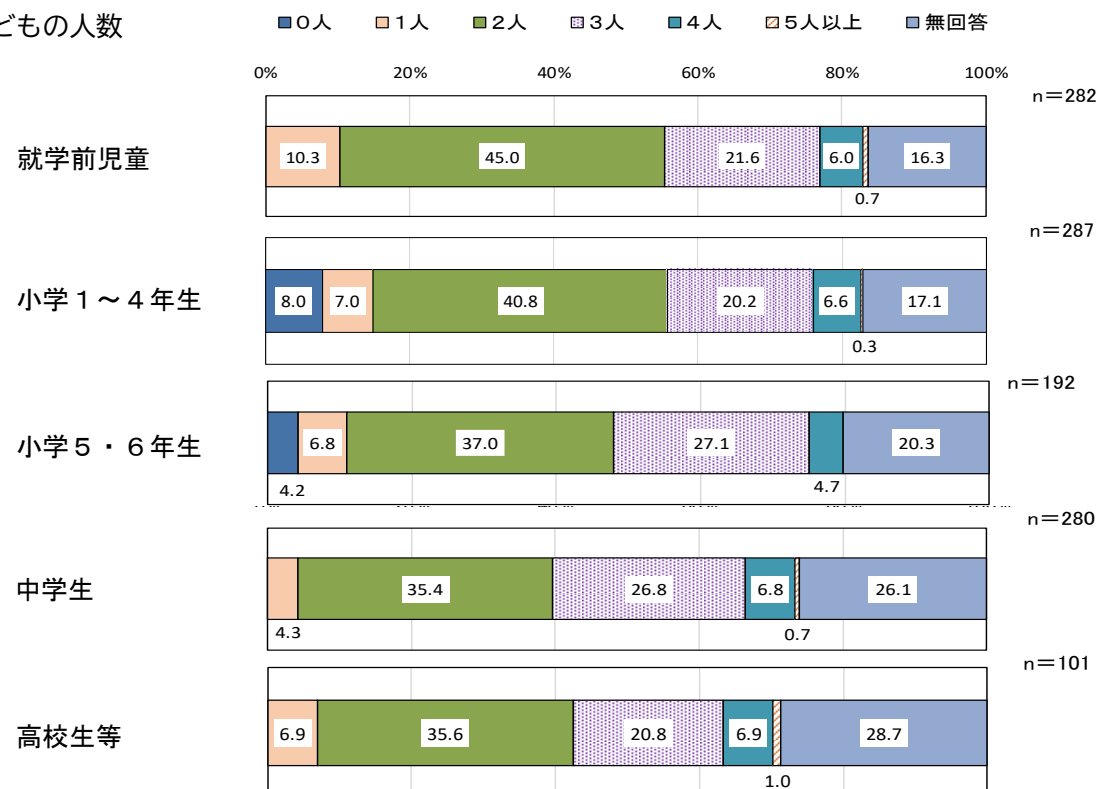
理想のこどもの人数をみると、いずれも「3人」が最も多く、就学前児童では45.7%、中学生では43.9%、小学1～4年生では41.8%となっています。

予定のこどもの人数をみると、いずれも「2人」が最も多く、就学前児童では45.0%、小学1～4年生では40.8%となっています。

■理想のこどもの人数



■予定のこどもの人数

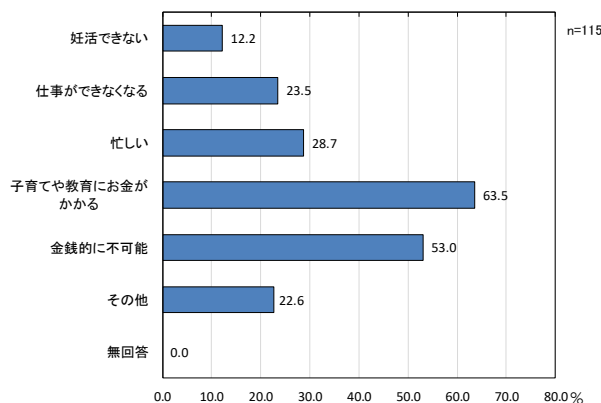


（４）理想と予定のこどもの人数が異なる理由について

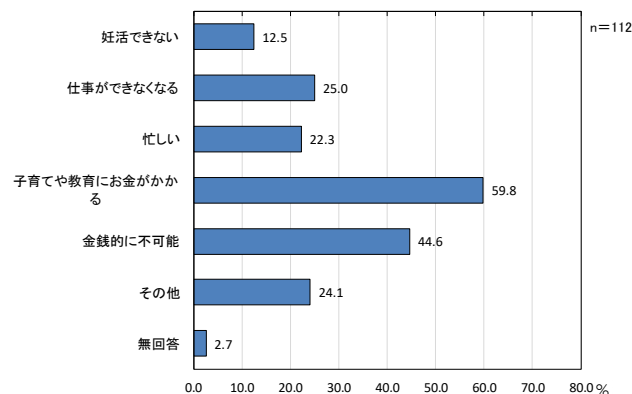
理想と予定のこどもの人数が異なる理由をみると、いずれも「子育てや教育にお金がかかる」との回答が最も多く、中学生では 65.4%、就学前児童では 63.5%、小学１～４年生では 59.8% となっています。

国の調査とも同傾向となっています。

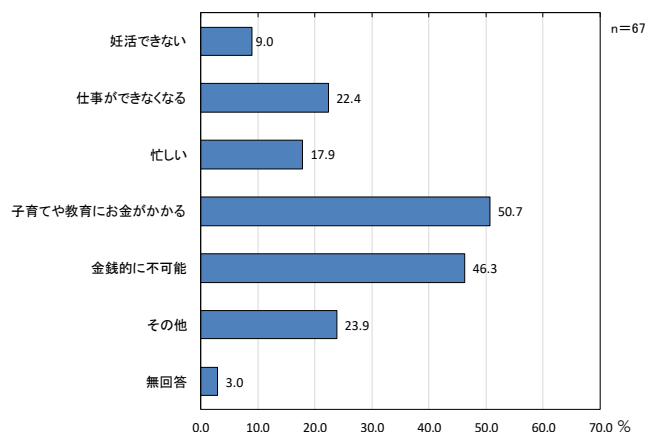
【就学前児童】



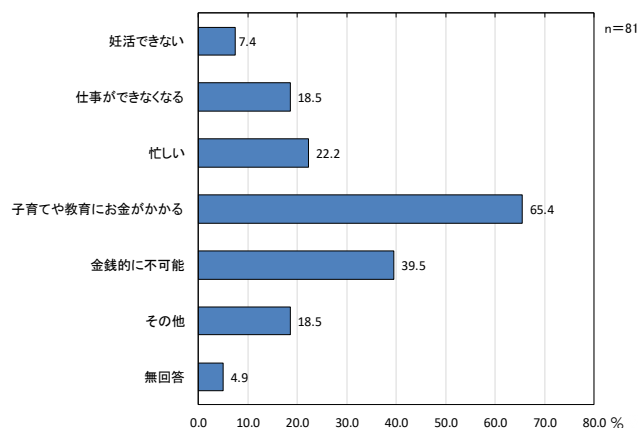
【小学１～４年生】



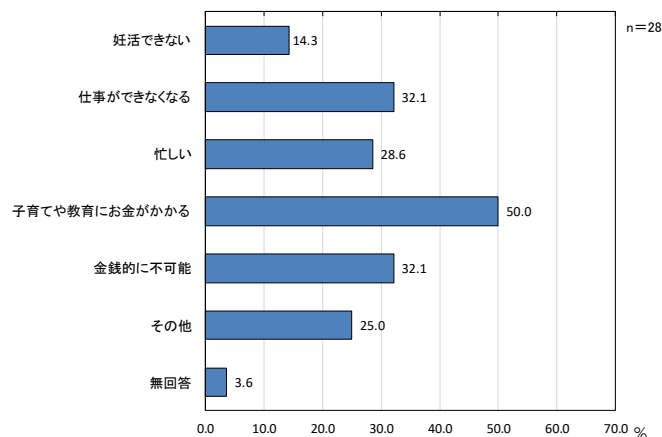
【小学５・６年生】



【中学生】



【高校生等】



■「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と回答した割合

	「思う」
就学前児童	63.5%
小学１～４年生	59.8%
小学５・６年生	50.7%
中学生	65.4%
高校生等	50.0%

■参考（国の調査）

国	52.6%
---	-------

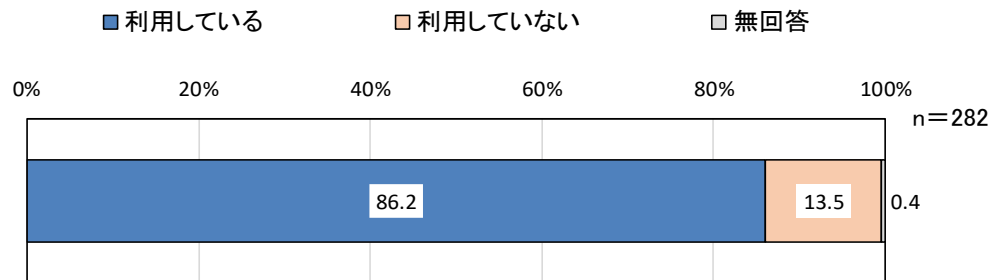
出典：国立社会保障・人口問題研究所
「出生動向基本調査」2021 年より

1-3 こどもの子育て環境について

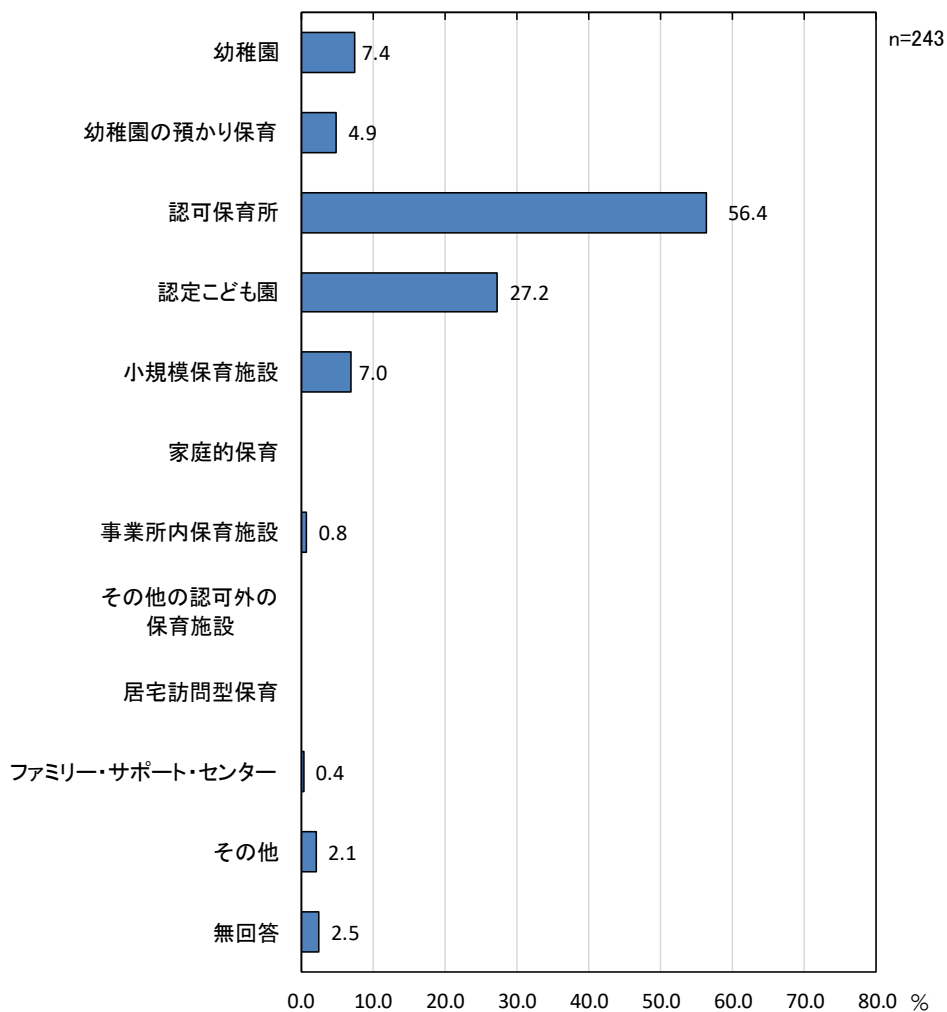
(1) 定期的な教育・保育事業の利用状況（平日）について

定期的な教育・保育事業の利用状況をみると、「利用している」が 86.2%であり、利用している事業は「認可保育所」が 56.4%と最も多く、以下「認定こども園」(27.2%)となっています。

■ 定期的な教育・保育事業の利用状況【就学前児童】

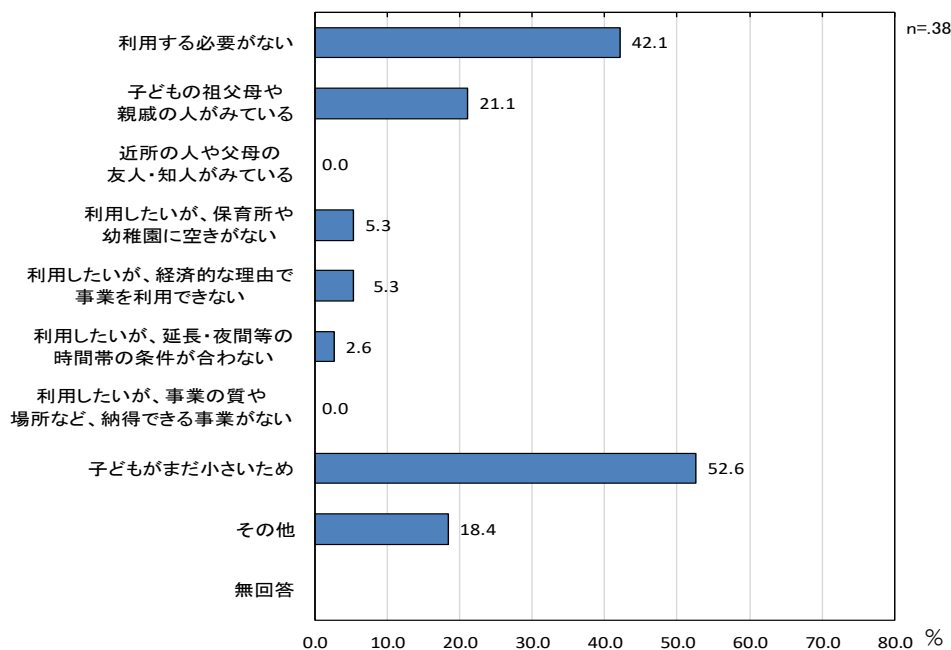


■ 利用している事業【就学前児童】



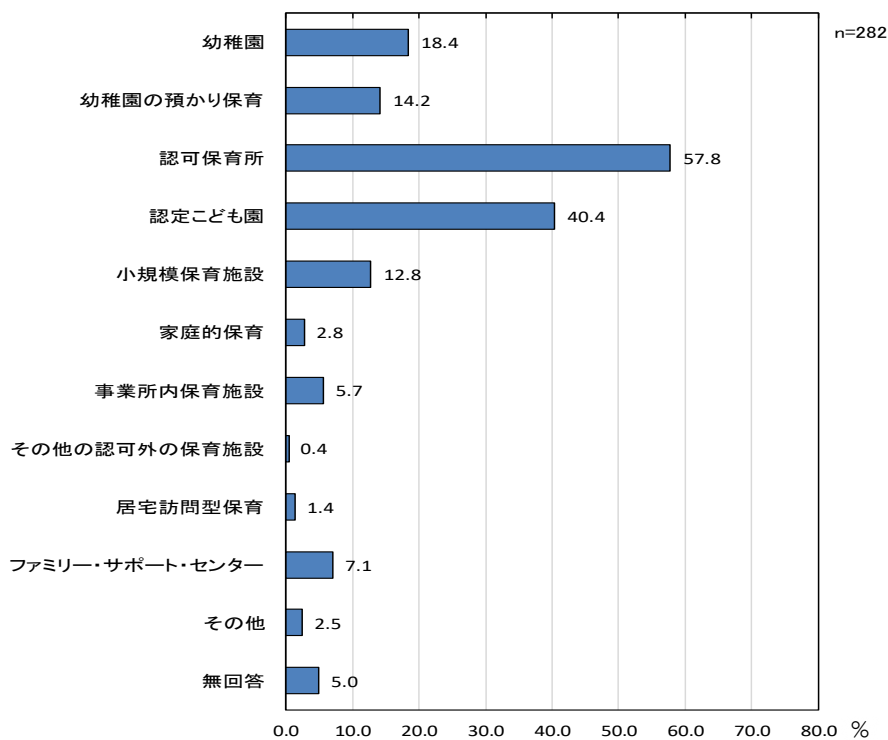
教育・保育事業を利用していない理由をみると、「子どもがまだ小さいため」が 52.6%と最も多く、以下「利用する必要がない」(42.1%)となっています。

■教育・保育の事業を利用していない理由【就学前児童】



定期的にご利用したいと考える事業をみると、「認可保育所」(57.8%)、「認定こども園」(40.4%)が多くなっています。

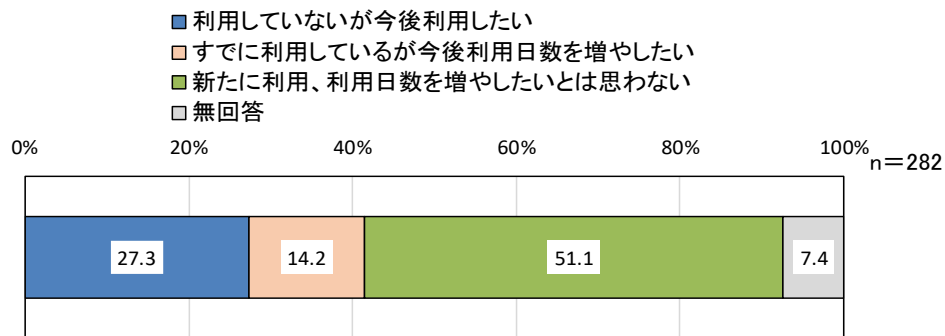
■定期的にご利用したいと考える事業【就学前児童】



(2) 地域の子育て支援拠点事業の利用状況と利用希望について

地域の子育て支援拠点事業の利用状況と利用希望をみると、「利用していないが今後利用したい」(27.3%)、「すでに利用しているが今後利用日数を増やしたい」(14.2%)の利用希望率は41.5%になっています。

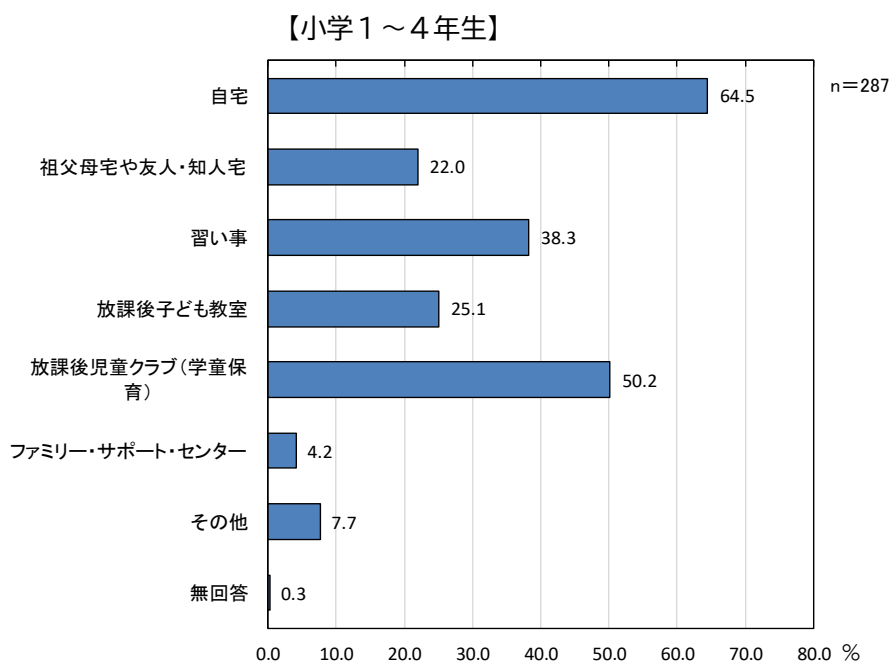
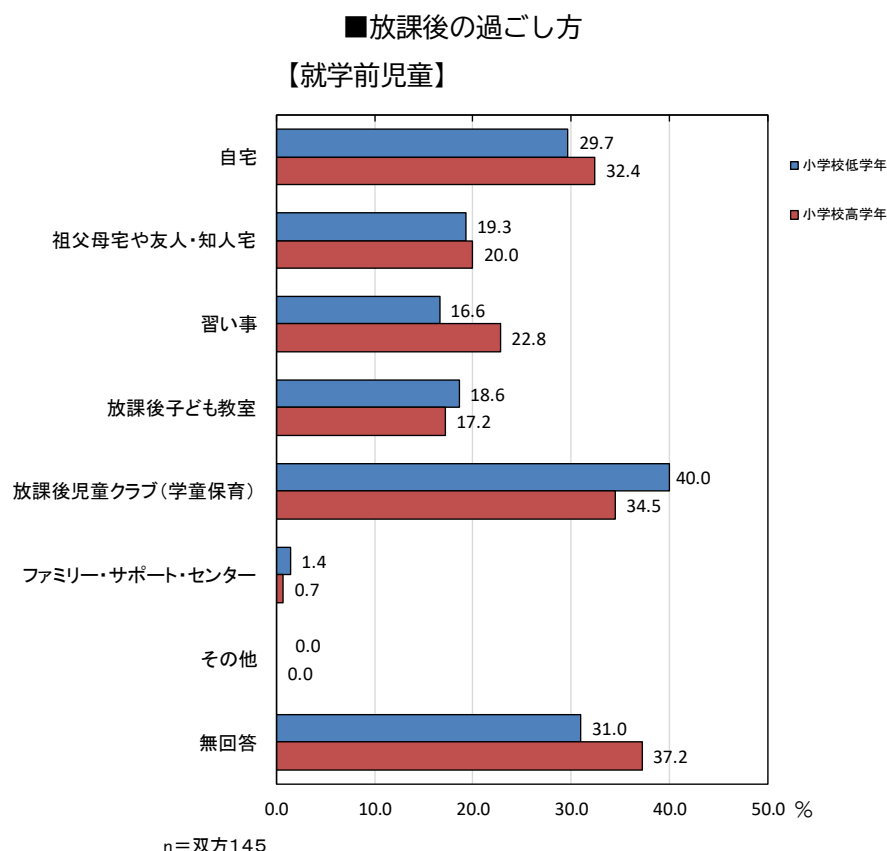
■地域の子育て支援拠点事業の利用状況と利用希望【就学前児童】



(3) 放課後の過ごし方について

就学前児童の保護者が考える放課後の過ごし方をみると、小学校低学年のうちは「放課後児童クラブ（学童保育）」（40.0%）、「自宅」（29.7%）の順となっています。小学校高学年になると「放課後児童クラブ（学童保育）」（34.5%）、「自宅」（32.4%）に加え、「習い事」（22.8%）が増えています。

小学1～4年生の保護者による実際の放課後の過ごし方をみると、「自宅」（64.5%）が最も多く、以下「放課後児童クラブ（学童保育）」（50.2%）、「習い事」（38.3%）が増えています。

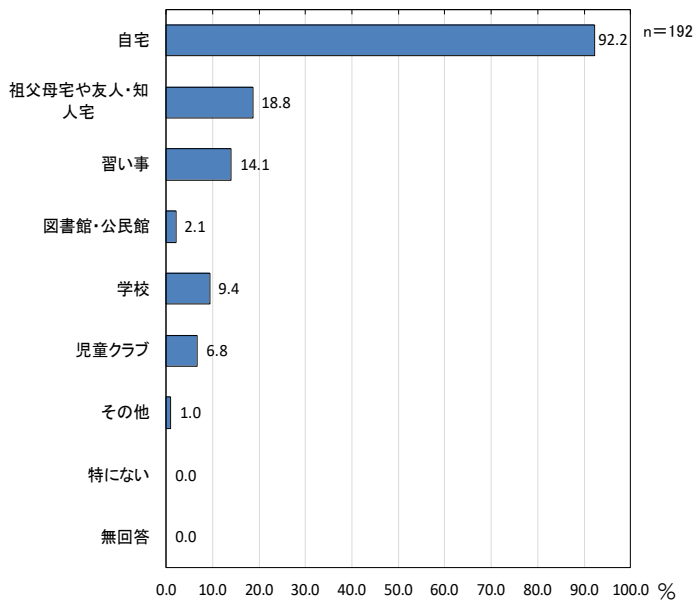


(4) 放課後過ごす場所について

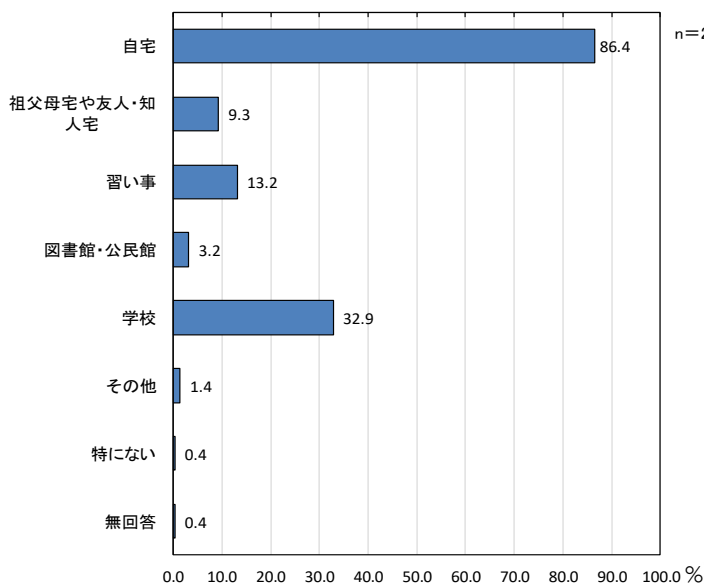
放課後過ごす場所をみると、いずれも「自宅」が最も多くなっています。小学5・6年生では、以下「祖父母宅や友人・知人宅」(18.8%)、中学生、高校生等では、以下「学校」(中学生：32.9%、高校生等：43.6%)が多くなっています。

■放課後過ごす場所

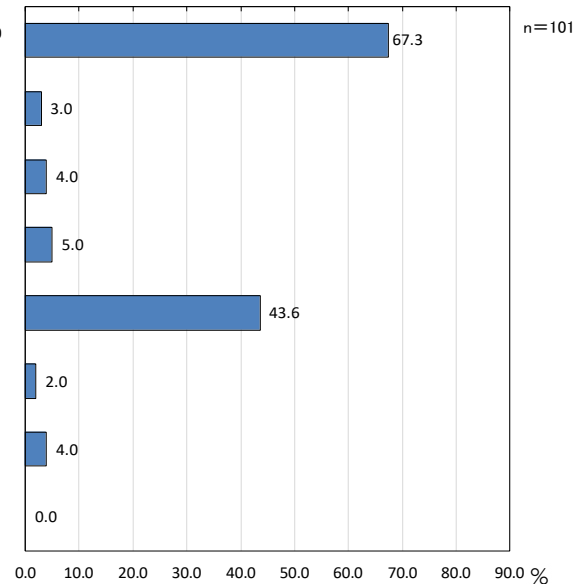
【小学5・6年生】



【中学生】



【高校生等】

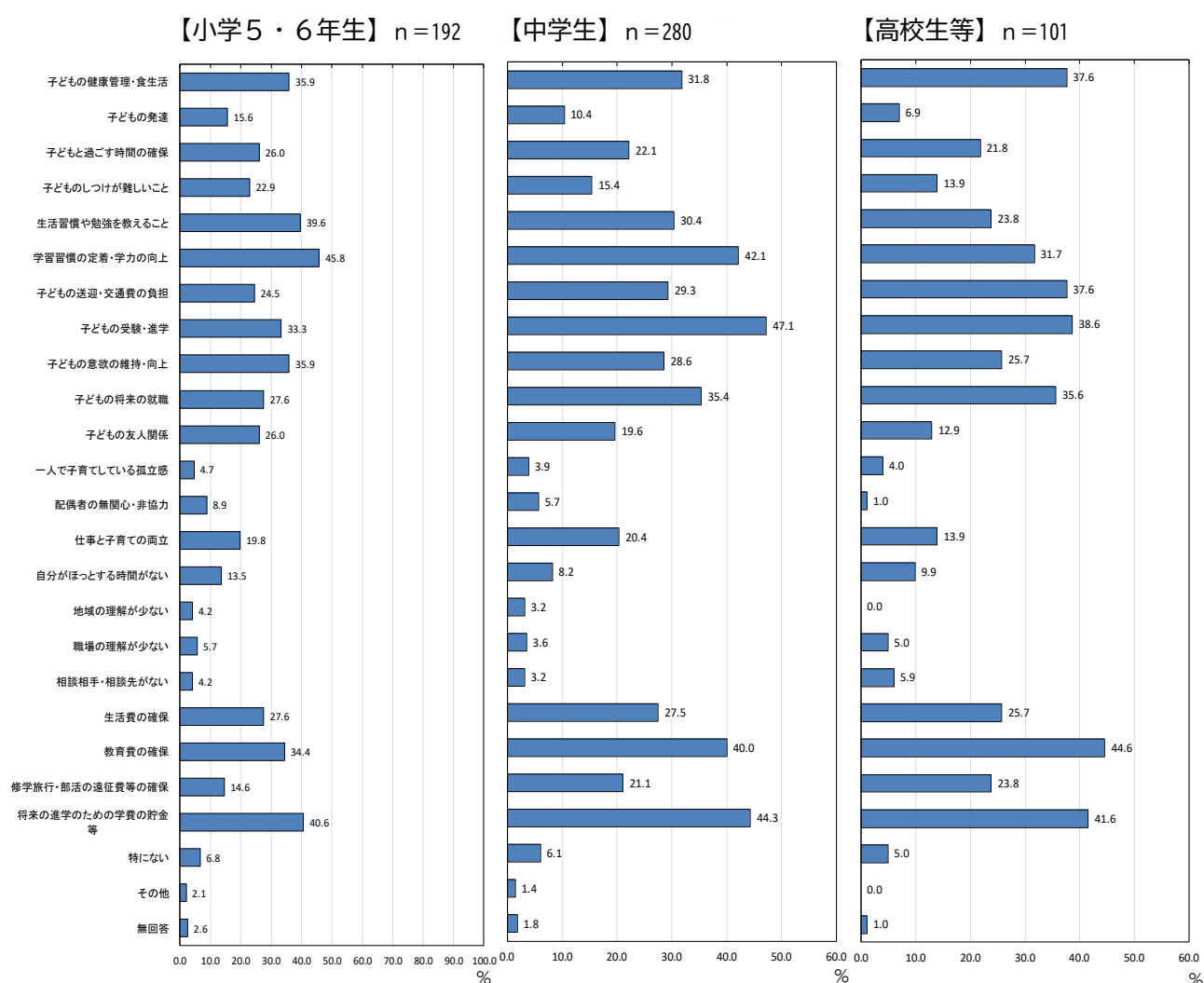


(5) 子育てをする上で、大変だと感じていること、悩んでいること

保護者が子育てをする上で、大変だと感じていること、悩んでいることをみると、上位3位に共通して入っているのは、「将来の進学のための学費の貯金等」（小学5・6年生：40.6%、中学生：44.3%、高校生等：41.6%）となっており、「教育費の確保」は年齢があがるにしたがって多くなっています。

小学5・6年生では「学習習慣の定着・学力の向上」、「生活習慣や勉強を教えること」、「子どもの意欲・維持向上」などの育成面について、中学生以上になると「子どもの受験・進学」、「教育費の確保」といった進学とその費用の不安が高まっています。

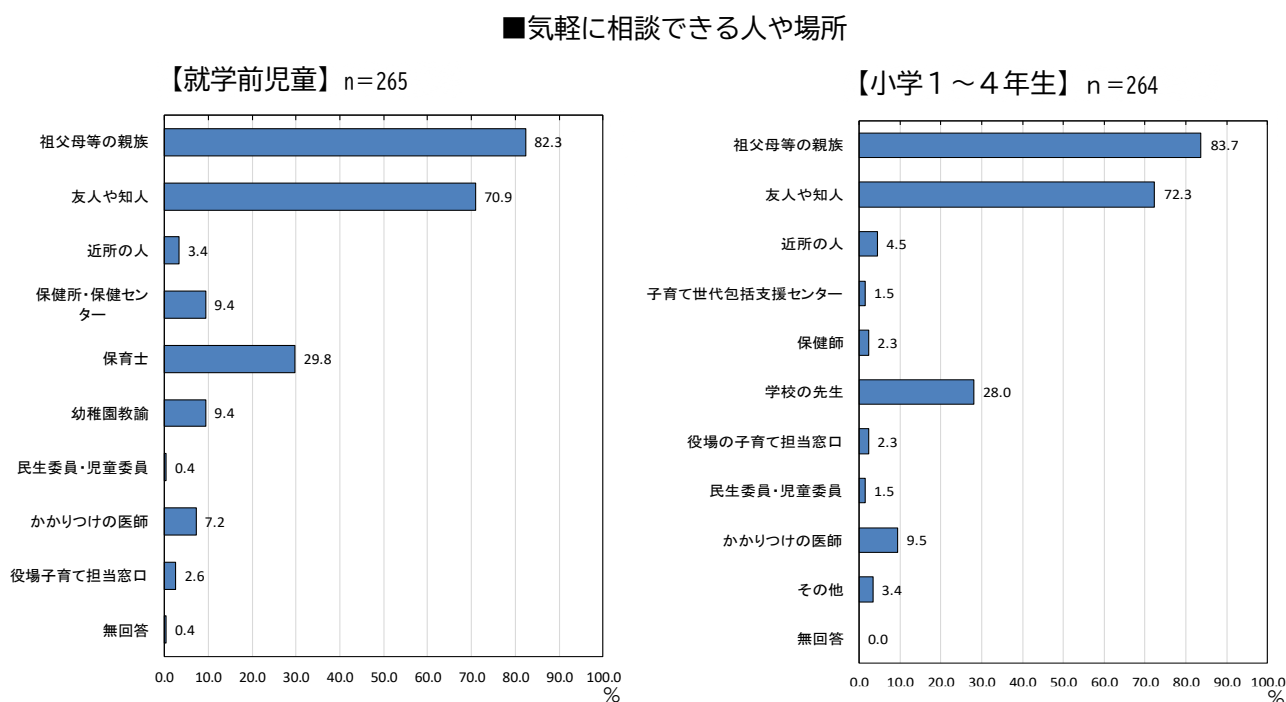
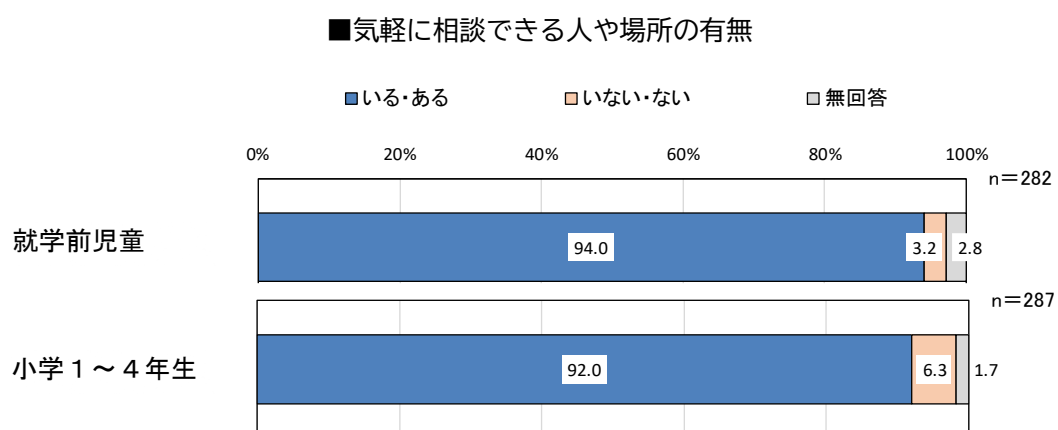
■子育てをする上で、大変だと感じていること、悩んでいること



（６）気軽に相談できる人や場所の有無について

気軽に相談できる人や場所の有無をみると、いずれも「いる・ある」が９割以上となっています。一方、「いない・ない」は、小学１～４年生では６.３％、就学前児童では３.２％となっています。

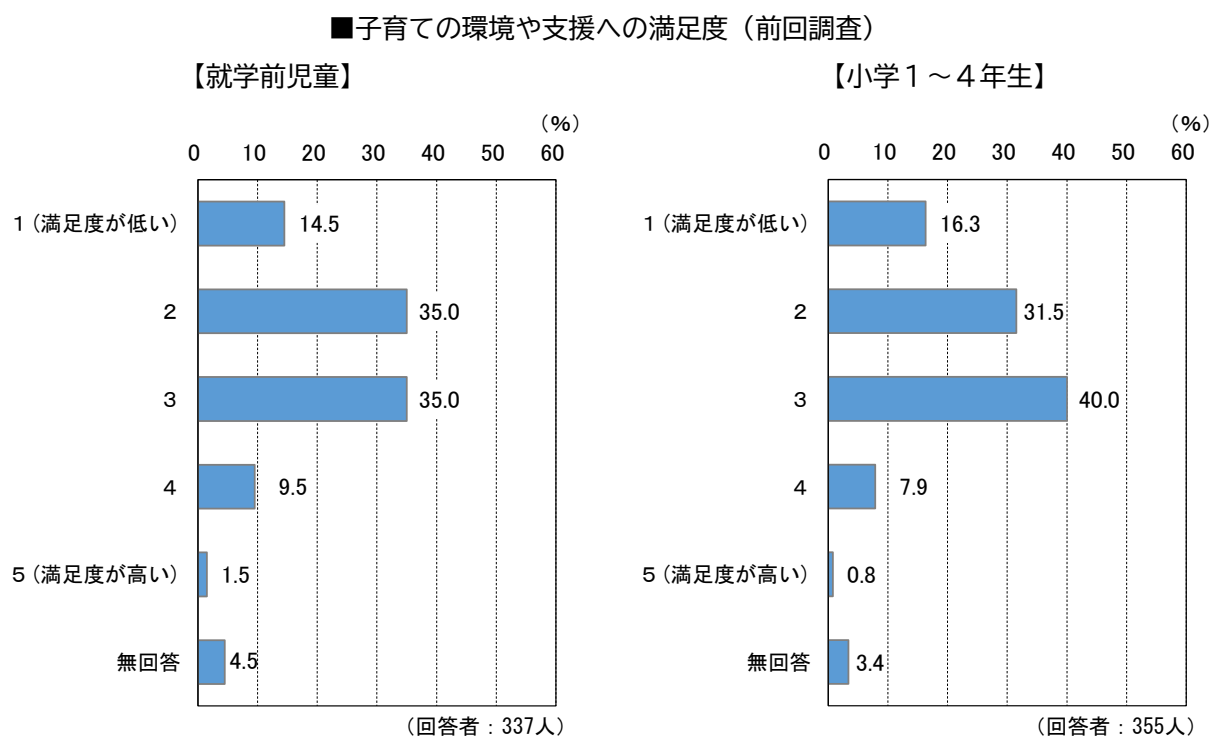
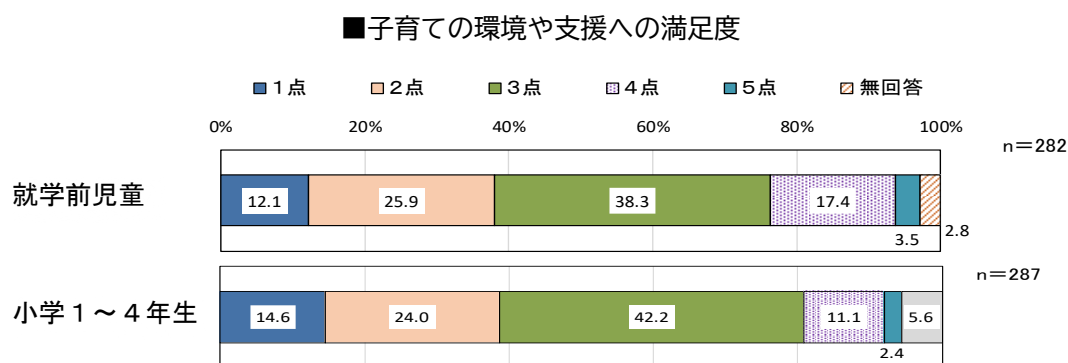
気軽に相談できる人や場所をみると、いずれも「祖父母等の親族」（就学前児童：８２.３％、小学１～４年生：８３.７％）が最も多く、以下「友人や知人」（就学前児童：７０.９％、小学１～４年生：７２.３％）となっています。就学前児童では「保育士」（２９.８％）、小学１～４年生では「学校の先生」（２８.０％）も上位に入っています。



(7) 子育ての環境や支援への満足度について

子育ての環境や支援への満足度をみると、いずれも「3点」(就学前児童：38.3%、小学1～4年生：42.2%)が最も多くなっています。

「1点」と「2点」を合わせたマイナスの評価を前回調査と比べると、就学前児童は前回の49.5%から今回は38.0%と11.5ポイント、小学1～4年生は前回の47.8%から今回は38.6%と9.2ポイント、ともに改善の評価となっています。

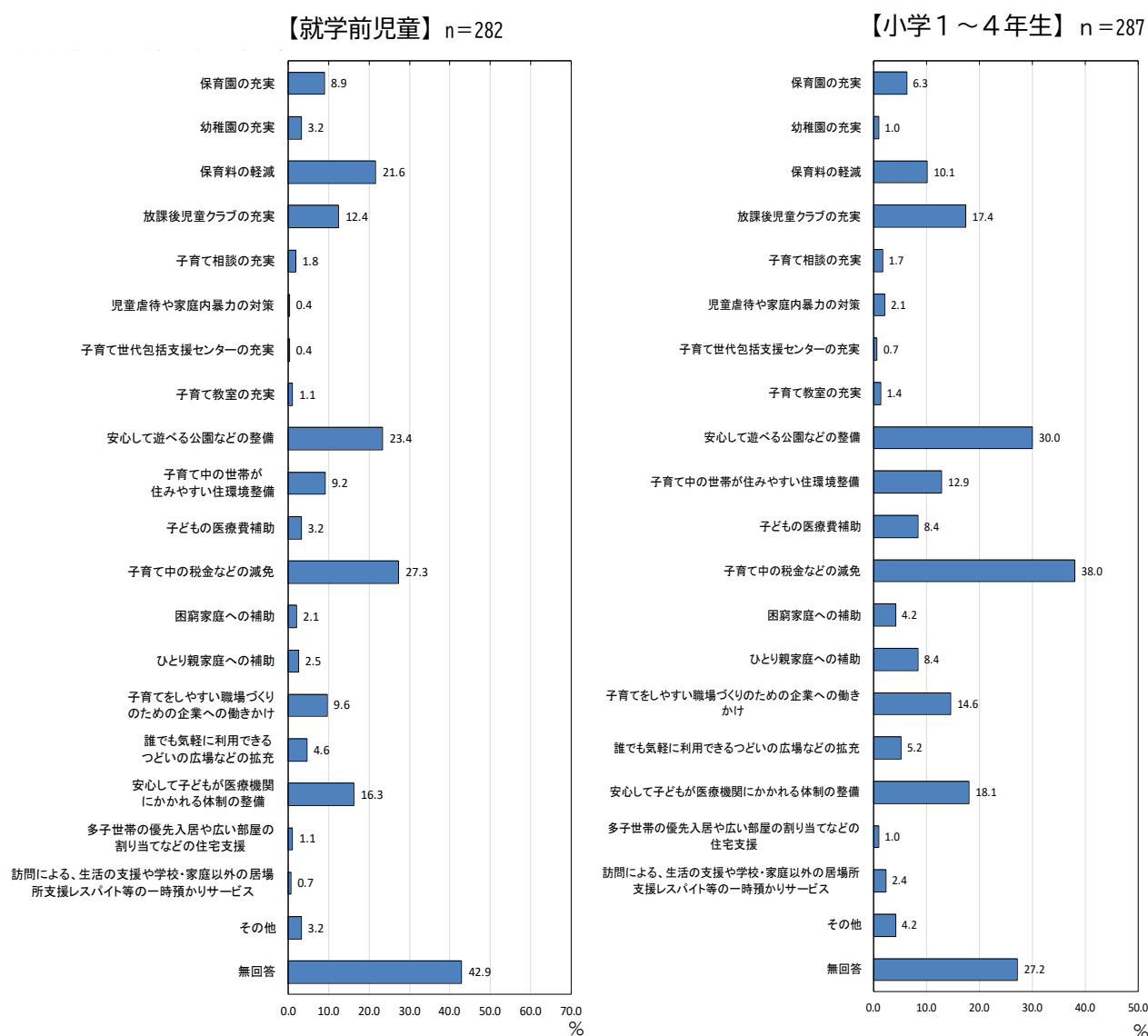


(8) 子育て支援に力を入れるべきことについて

子育て支援に力を入れるべきことをみると、いずれも「子育て中の税金などの減免」(就学前児童：27.3%、小学1～4年生：38.0%)が最も多く、以下「安心して遊べる公園などの整備」(就学前児童：23.4%、小学1～4年生：30.0%)となっています。

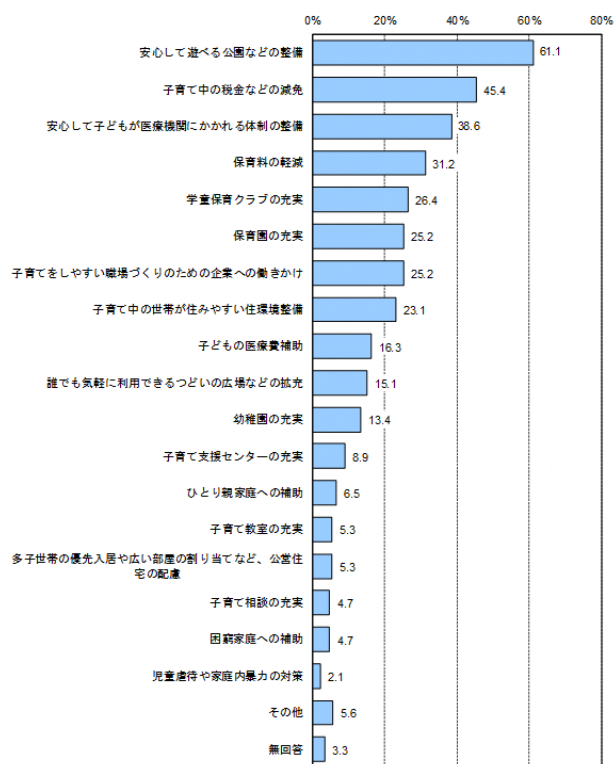
前回調査と比べると、いずれも上位2位は同じで「安心して遊べる公園などの整備」(就学前児童前回：61.1%、小学1～4年生前回：59.4%)、「子育て中の税金などの減免」(就学前児童前回：45.4%、小学1～4年生前回：48.5%)ですが、全体に今回の回答比率は下がっています。

■子育て支援に力を入れるべきこと



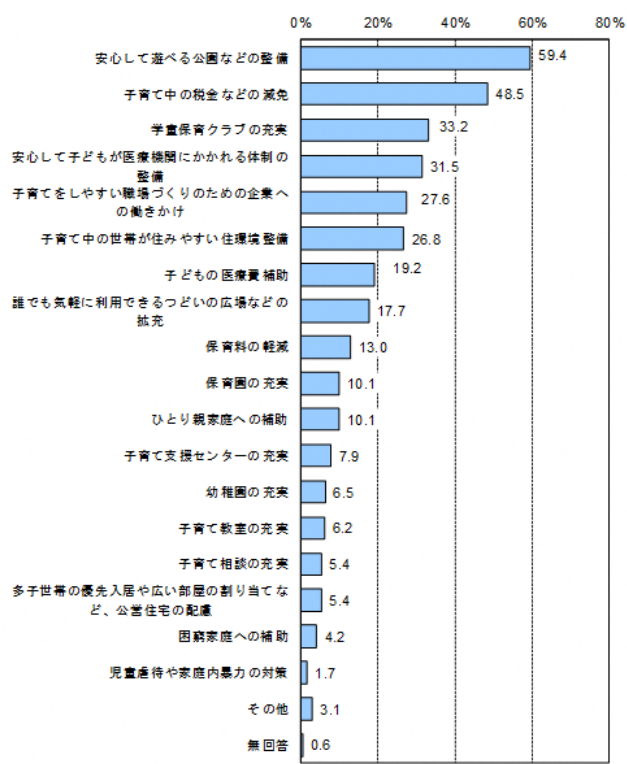
■子育て支援に力を入れるべきこと（前回調査）

【就学前児童】



(回答者：337人)

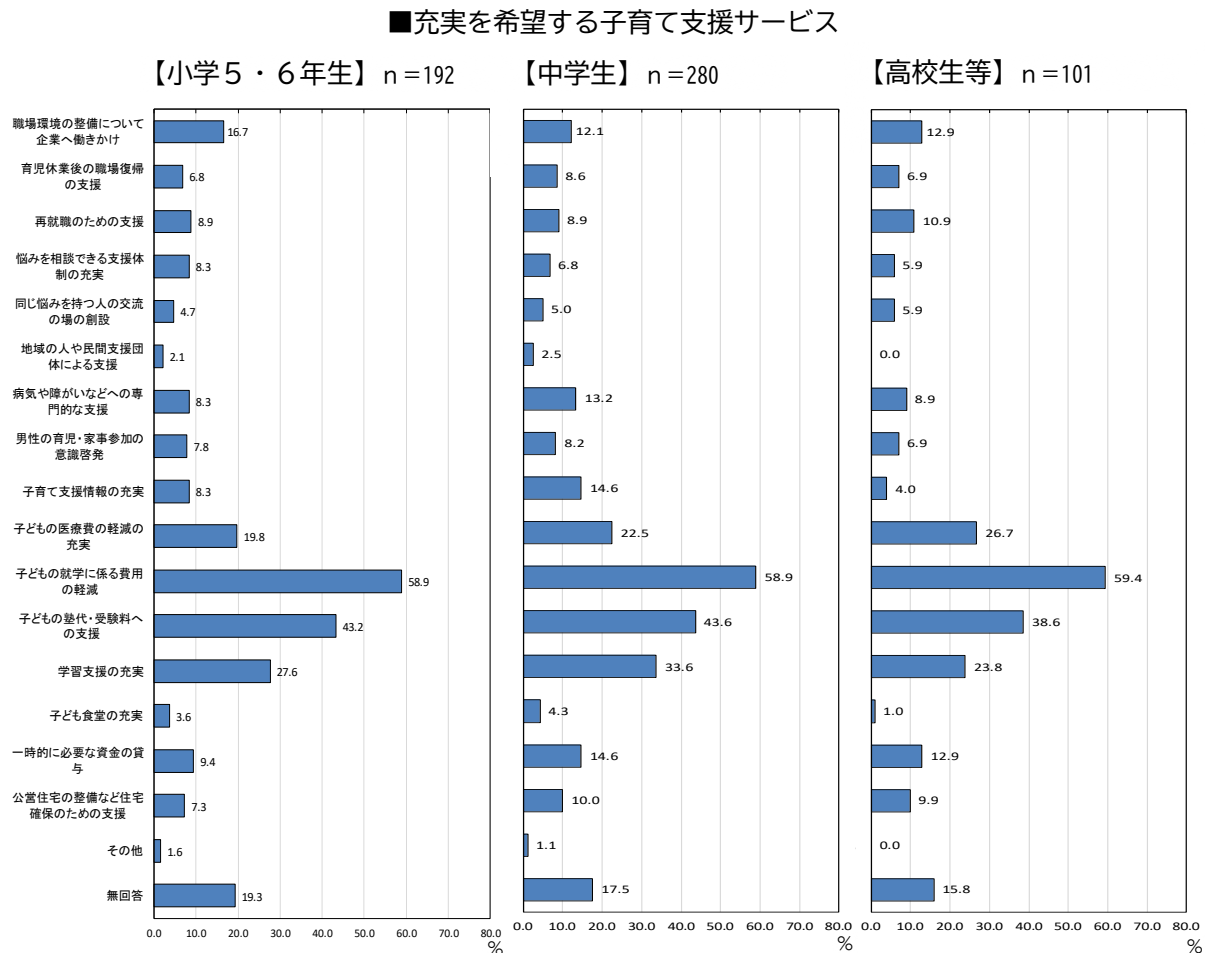
【小学1～4年生】



(回答者：355人)

(9) 充実を希望する子育て支援サービス

充実を希望する子育て支援サービスをみると、いずれも順位は異なりますが上位4項目は同様に、「子どもの就学に係る費用の軽減」(小学5・6年生：58.9%、中学生：58.9%、高校生等：59.4%) が最も多く、以下「子どもの塾代・受験料への支援」(小学5・6年生：43.2%、中学生：43.6%、高校生等：38.6%)、「学習支援の充実」(小学5・6年生：27.6%、中学生：33.6%、高校生等：23.8%)、「子ども医療費の軽減の充実」(小学5・6年生：19.8%、中学生：22.5%、高校生等：26.7%)と、経済的支援が上位となっています。



1-4 生活の苦しさについて

(1) 過去1年間に経済的な理由で未払いになったことの有無

過去1年間に経済的な理由で未払いになったことの有無をみると、未払いが最も多いのが「水道料金」（就学前児童：5.7%、小学1～4年生：3.1%、小学5・6年生：4.7%）となっており、中学生では「電気料金」（6.1%）、高校生等では「ガス料金」（5.0%）が最も多くなっています。国の調査と比べると、「電気料金」、「ガス料金」で国を上回っています。

■過去1年間に経済的な理由で未払いになったことの有無

	電気料金	ガス料金	水道料金
就学前児童	3.9%	4.6%	5.7%
小学1～4年生	2.1%	2.4%	3.1%
小学5・6年生	3.1%	2.6%	4.7%
中学生	6.1%	3.6%	4.3%
高校生等	3.0%	5.0%	3.0%

■参考（国の調査）

	電気料金	ガス料金	水道料金
国	5.3%	6.2%	5.3%

出典：国立社会保障・人口問題研究所「生活と支え合いに関する調査（特別集計）」2017年より

(2) 過去1年間に経済的な理由で食料が買えなかったことの有無

過去1年間に経済的な理由で食料が買えなかったことの有無をみると、「よくあった」と「ときどきあった」と「まれにあった」を合わせた「あった」が多いのは、小学1～4年生では19.8%、中学生では18.9%、高校生等では16.9%、就学前児童では16.3%、小学5・6年生では16.2%となっています。

国の調査と比べると、小学1～4年生、中学生は国を上回っています。

■過去1年間に経済的な理由で食料が買えなかったことの有無

	「あった」
就学前児童	16.3%
小学1～4年生	19.8%
小学5・6年生	16.2%
中学生	18.9%
高校生等	16.9%

■参考（国の調査）

	食料が買えない経験
国	16.9%

出典：国立社会保障・人口問題研究所「生活と支え合いに関する調査（特別集計）」2017年より

(3) 過去1年間に経済的な理由で衣服が買えなかったことの有無

過去1年間に経済的な理由で衣料が買えなかったことの有無をみると、「よくあった」と「ときどきあった」と「まれにあった」を合わせた「あった」が多いのは、小学1～4年生では20.6%、高校生等では18.9%、就学前児童では18.8%、中学生では18.1%、小学5・6年生では17.7%となっています。

国の調査と比べると、小学1～4年生が近似ですが、国を上回ってはいません。

■過去1年間に経済的な理由で衣服が買えなかったことの有無

	「あった」
就学前児童	18.8%
小学1～4年生	20.6%
小学5・6年生	17.7%
中学生	18.1%
高校生等	18.9%

■参考（国の調査）

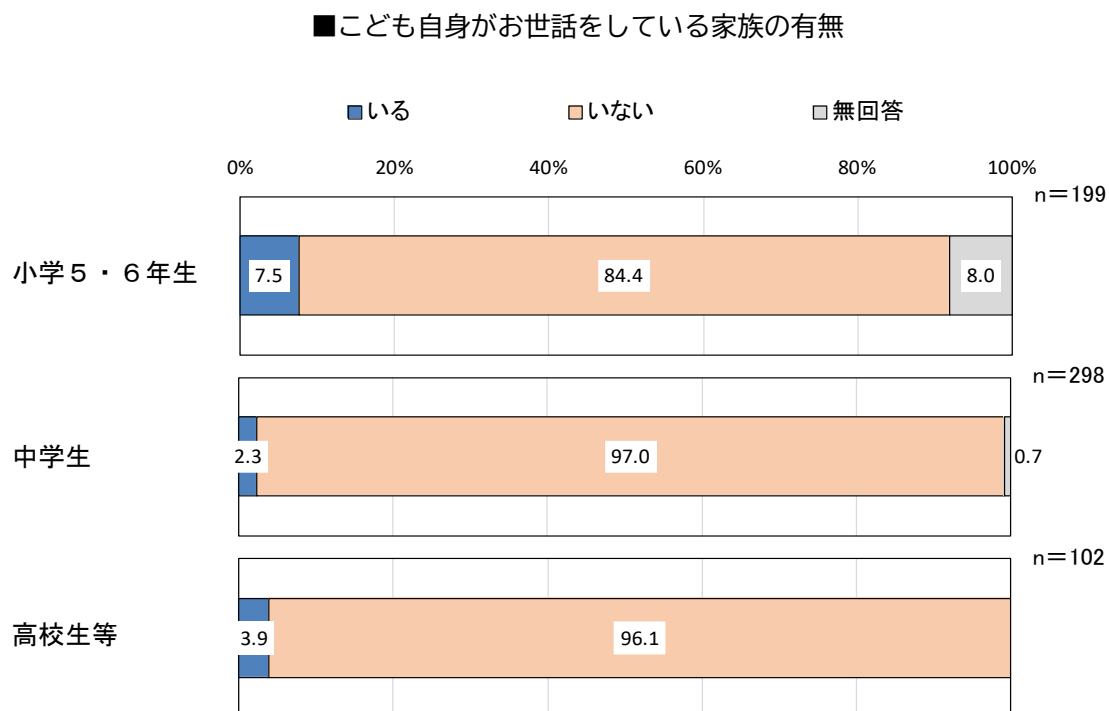
	衣服が買えない経験
国	20.9%

出典：国立社会保障・人口問題研究所「生活と支え合いに関する調査（特別集計）」2017年より

1-5 ヤングケアラーについて

(1) ヤングケアラーの可能性について

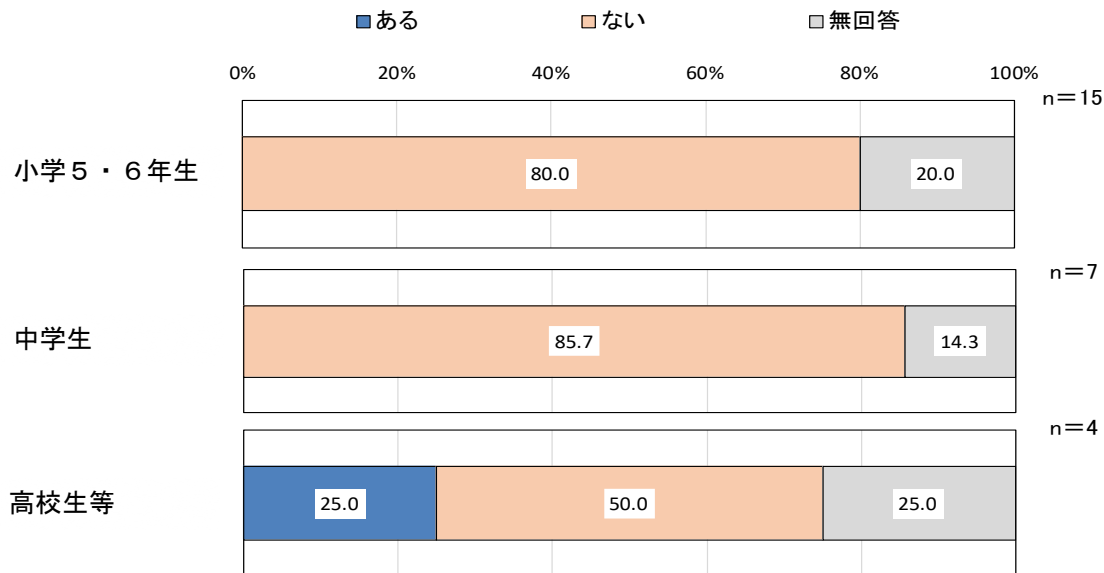
こども自身がお世話をしている家族の有無（ヤングケアラーの可能性）をみると、「いる」が多いのは小学5・6年生では7.5%、高校生等では3.9%、中学生では2.3%となっています。



(2) お世話をしている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことの有無について

こども自身がお世話をしている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことの有無をみると、「ある」との回答は高校生等のみであり、回答があった4人中1人の25.0%となっています。

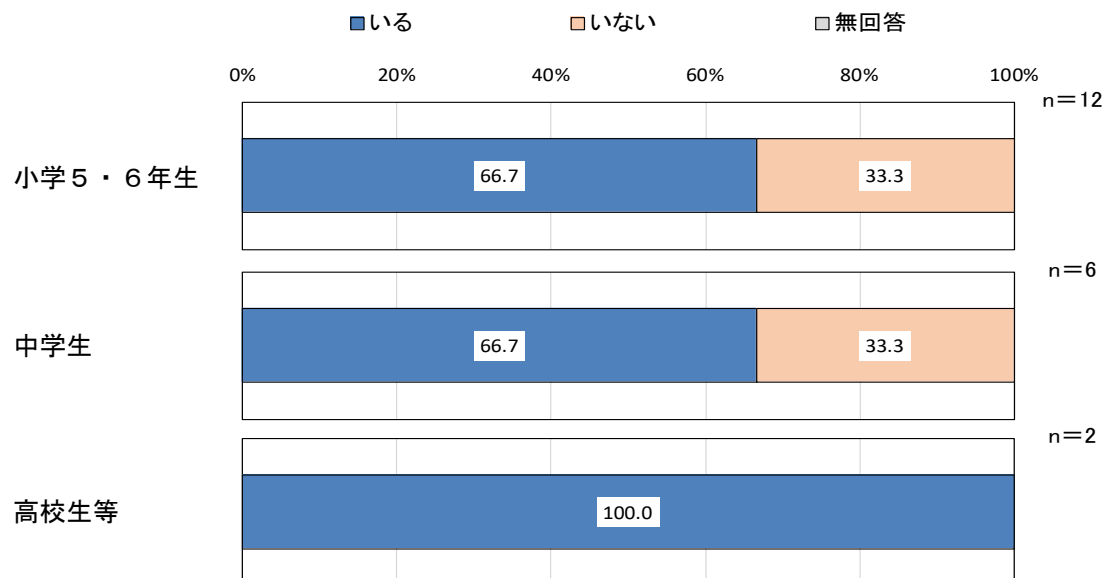
■こども自身がお世話をしている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことの有無



(3) お世話の悩みを誰かに相談したことがないこどもの悩みを聞いてくれる人の有無について

お世話をしていることを誰かに相談したことがないこどもの悩みを聞いてくれる人の有無をみると、いずれも「いる」が最も多くなっていますが、小学5・6年生、中学生ではともに「いない」が33.3%となっています。

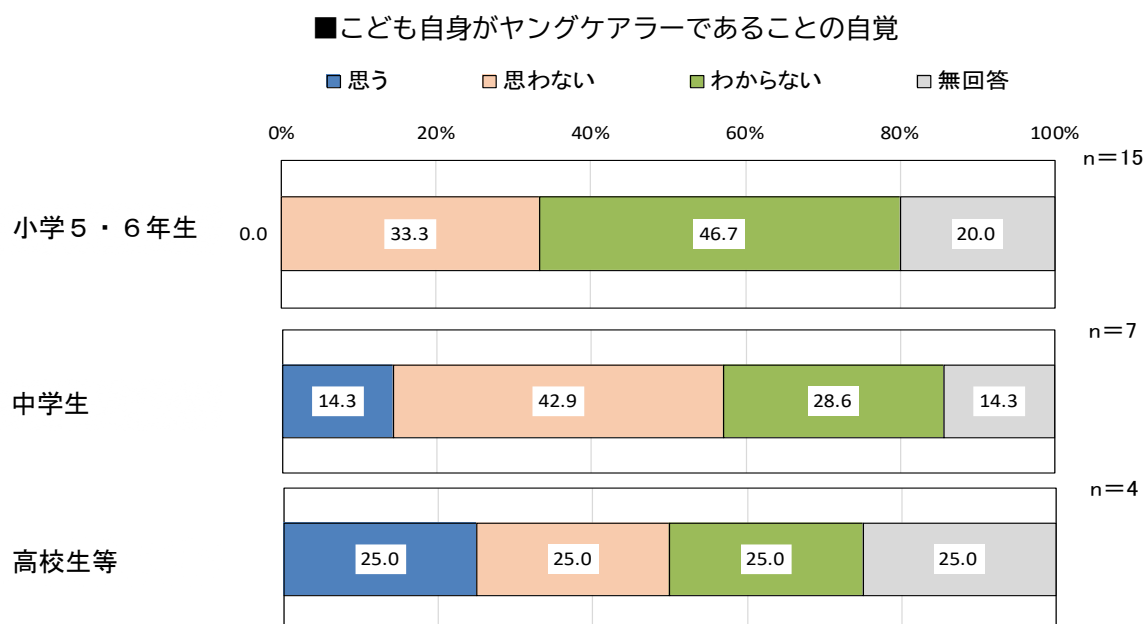
■お世話をしていることを誰かに相談したことがないこどもの悩みを聞いてくれる人の有無



（４）こども自身がヤングケアラーであることの自覚について

こども自身がヤングケアラーであることの自覚をみると、「思う」は小学５・６年生では皆無、中学生では 14.3%（７人中１人）、高校生等では 25.0%（４人中１人）となっています。

なお、基数が少ないため、国の調査は参考として掲載します。



■参考（国の調査）

	「思う」
中学２年生	1.8%
全日制高校２年生	2.3%

出典：厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」2021 年度より